

20141031 浜松市教育委員会 厚生文教委員会視察

小中一貫教育の取り組み

教育総務、吉田指導主事 辻村総務企画グループ長

- ・施設一体型本年、2校目
- ・小中一貫はじめて4年目
- ・全国的に小中一貫の流れ
- ・H17 12市町村合併し政令指定都市に 81万人
- ・学校規模適正化にも取り組んでいる
- ・ノーベル賞 天野氏は浜松市出身
- ・小学校100(44000人) 中学校41(21000人) 市立高校1 幼稚園63園
- ・10年後に子どもの人数は1万人減少
- ・市長マニフェスト 子ども第一主義
- ・教育目標「
- ・人づくり
- ・3つの柱 幼児教育、ふるさとを学ぶ 小中一貫教育
- ・ベクトルを一つに
- ・地域も一緒になって取り組める
- ・小学校と中学校の9年間の学びと育ちをつなぐ
- ・平成22 5月に方針(教育委員会策定) 23年度から動き出した
- ・中学校区 目指す子供の姿を設定
- ・学校だけでなく、地域やPTA等も交えて策定した
- ・小中一貫カリキュラム
- ・現場の先生が中心で作った
- ・小中合同の研修会の開催
- ・多い校区は年間約10回開催
- ・PTAが入って一緒に研修受けることも
- ・幼稚園では市立、私立一緒に学ぶことも
- ・「つなぐ」とりくみ
- ・学び、育ち、人
- ・2分の1成人式、立志式
- ・小4で自分を振り返り目標建て、ファイルに残し、中学校に送る
- ・中2の時さらに振り返り、立志式、ファイル保存し、成人式で返す
- ・成人式は中学校区で開催
- ・ここで育ってよかった
- ・卒業生が中学校生活を小6に説明
- ・中学生が小学生に読み聞かせ

- ・中学校区を主体にすることで校区活動が生まれる
- ・共に平和について学ぶ「中3が先生」
- ・先生の結びつきがあるからこそできる
- ・小中合同研修会では
- ・小中それぞれのメリットを生かし合う
- ・施設一体型
- ・引佐北部小中学校 H24.4開校
- ・庄内学泉H26.4開校
- ・浜松中央地区H29.4開校予定
- ・引佐北部小中学校
- ・H22 3つの小学校が統合
- ・4, 3, 2制
- ・初等1-4 中等5-7 高等8-9
- ・新設効果設立「国際コミュニケーション科」「ふるさと科」
- ・小中一貫だけ市内どこから通ってもよい
- ・16名(約1割)は学区内から来ている
- ・一貫校は国基準ない
- ・校長、教頭1名ずつ
- ・2名削減できた分を小学校教諭にまわした
- ・小中先生いるので、小6授業に中学校の先生が教えに来る
- ・兼務辞令発令する

○成果と課題

- ・2014文科省小中一貫脅威育調査
- ・生徒指導上の成果
- ・連続性確保の取り組み 授業スタイル 学習習慣 生活習慣
- ・成果認められる94%
- ・課題認められる94%
- ・成果と課題は表裏一体
- ・成果事例
- ・中1ギャップの緩和 46分の44
- ・進学への不安解消 44
- ・小中の良さを取り入れる意識
- ・教員の指導改善意欲
- ・指導内容の系統性
- ・課題
- ・9年間の指導計画、教材開発

- ・総合的な学習うまく系統できないか
- ・合同研修・打合せ時間の確保
- ・成果、課題の分析
- ・教職員の負担感、多忙感
- ・交流事業の移動時間・確保
- ・推進のポイント
- ・いま大切なことに向き合う（防災、いじめ、命）
- ・幼小中の子ども、教員が win-win
- ・教員からのボトムアップがある
- ・小中のカリキュラムをつなぐ視点がある
- ・参観型から参加型へ
- ・校区の強み（ひと・もの・こと）を共有している
- ・一人一人の教員が小中一貫養育をどう捉えるか
- ・管理職の捉え方大事。そこからどうおろしていくか
- ・浜松市で小中一貫の話が下りてきた時、ぴんとこなかった
- ・イメージは今まで徒競走
- ・リレーのイメージ。バトンを渡す
- ・走り終わった人も終わるまでみている
- ・アンカーも最初からみている
- ・先生の捉え方、見方が変わると、手法が増える
- ・浜松市のこれから
- ・たてのつながりは小中一貫
- ・地域コミュニティとのつながり（横のつながり強化でチームを増やす）
- ・子どもの資質能力を伸ばす
- ・例えば、読書好きを増やしましょう
- ・中3からやってもそうならない

○質疑

- ・引佐北部小中学校模擬会社きりやまの運営
- ・カブトムシやムカゴ、しいたけなどの育成、販売
- ・人事とかもあり面接もする
- ・ふるさと科、週2時間
- ・先生の確保は？
- ・模擬会社を中心に、地元ことを学ぶ。歴史もあるが、環境面が多い
- ・1年生から英語学ぶ
- ・1時間かけて通う生徒も

使命感を持つための具体的取り組みは？振り返り

- ・ 4, 3, 2 縦割りを重視
- ・ 4年生の時にリーダー 7年生の時にリーダー 9年生の時にリーダー
- ・ 4, 3, 2 は発達区分
- ・ 保護者にとっては、低学年であるほど喜んでいる
- ・ 先の見通しが持てる
- ・ 兄弟いても行事が一つ
- ・ 学力も大事だが、人間教育という根本的なところをしっかりとつけて、高校に送りたい

・英語と国語のバランスは

- ・ 小中一貫、例えば成績悪かったところを中学校に引き継げる
- ・ 全国学力調査、中学校の成績をみればよい
- ・ 国が推進しているコミュニティスクール
- ・ 学校支援地域本部
- ・ 土曜日の活用
- ・ 放課後の活用
- ・ 泉大津は小中一貫やりやすいベストではないか
- ・ 引佐北部 110 人 省内学園 小学校 361 人 中学校 225 人 合計 586 人
- ・ 中央 723 人
- ・ 小 1, 2 は基本 35 人で学級編成だが 30 人学級目指している
- ・ 独自予算で私費の講師を雇って、30 人学級を目指している
- ・ 中学校区で目指す子供の姿
- ・ 学校から地域へ相談
- ・ 10 月までに話し合ってみてください
- ・ 6 月に出てきた
- ・ 学校から地域へ話し合う場
- ・ 最終的に 3 月に決まった
- ・ 1 年間試す期間
- ・ 地域への浸透は
- ・ 学校のグランドデザイン
- ・ 垂れ幕やったり、小中連名で便りを出すことも
- ・ 使命感もった取り組み
- ・ 50 代の教員が一番多い
- ・ O J T
- ・ 30 歳前後教員と 50 代前後の教員が強化に分かれて指導する制度
- ・ 教師塾
- ・ 先輩教員から何を学ぶか

- 国際コミュニケーション科
- 週1で35時間 5、6年生は70時間
- 中学校区研修会に幼稚園の先生も入ってくる
-